（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）（日刊）日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年五月四日（火曜日）　第九十九號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●經濟上の滿洲

滿洲の經濟の狀態を極く大觀をしまして申しませう滿洲の大きさは世人も知る通り日本の三四倍あります、而して黑龍江、松花江、遼河等の土地を肥沃にする河は縱橫に流れて居りますそれで關東州の如きは土地が極く荒れ且痩せて農作は甚だ不便だと云つて居りますが、進んで北滿洲に往けば土地頗る豐饒で麥も豆も出來る、或は牧草の如きも良いものが出來まして、至極農耕牧畜の業に適するものであります、夫れで殆ど世界の大豆は滿洲一面で供給を致して居るやうな次第である、其大きな滿洲の門戶と云ふものは最近は營口一つであつた、夫れが露西亞人が大連を開きてから大連と營口との二つになつて居ります、今日では其露西亞の權利を日本が受繼ぎましたから矢張大連を滿洲の門戶としたいと云ふので色々設備を致さなければならぬ考で、以て其門戶たる役目を致して居ります、それで此大連と營口に付て云はふなら滿洲の貿易の力をざつと計算して見ますと、二十七八年の戰爭前、二十六年頃の營口の輸出入の力を見まするど凡そ四千三四百萬圓の金額に上つて居るやうであります、然るに二十八年になりますと日淸戰爭の爲に渤海の航海が不安全になつた爲に非常に打擊を受けて一年の輸出入が六百萬圓許りになつて居るやうであります、然るに二十八年九年三十年と漸次それが恢復しまして、三十二年頃には四千七百万圓許りになつて居ります、それで平生の營口の其頃の輸出入の物貨を呑吐する力を考へますと、ざつと五千萬圓前後のやうであります、三十三年には例の北淸事件の爲に大變打擊を受けて二千萬圓に下つて居ります、それから三十三年三十四年三十五年三十六年頃迄は又元に戾つて四千五六百萬圓から五千万圓の間を上下して居る、三十七年八年となりましてそれが酷く又打擊を受けて其半分位になつた、今日では三十九年四十年迄の調べがありますが四十年頃の調べで見ますと平生の力より下つて、四千七八百萬圓を呑吐して居つた營口が三十九年四十年となりましては三千萬圓一寸出た位の所になつて居ります是が營口大連に對しましての問題の大に氣を付けべき點であらうと思ひます、十四五年前から三十七八年の戰爭前迄營口の呑吐の力が五千萬圓の前後を往來して居りました輸入して居る品の多くは綿絲綿布であります、それに石油、又出しますものは大豆、豆粕、醬油、少々の皮類も出ますが、是は僅であります、大きい所は豆の一族であります、それが五千萬圓前後であつたのが、三十九年四十年となつて三千万圓から四千萬圓位に減じて來て居る、之を掛けたりから年々歲々

增して來た布數總監督として權力はどう

退して臨席せしめ先づ式は祭主大將する者

つて開かれ形の如く式を終り參列者總代

が夥しい、露西亞は西伯利亞方面に向つて年々歲々四百万留を費じて頻に移住民を保護してやつて居りますが、人は殖へ土地の力が殖へ、殊に滿鐵などが頻りに仕事をし始めて經濟力が急に增進して居ります、然るに營口の物貨の呑吐は、三十九年四十年となつて十五年頃より力が下つて居るのは非常に原因がなくてはならぬ事柄であります（白仁武）

文苑

●蛙の懇親會　はなの

膳部は運ばれ來客はズラリと坐席に着く、主人役が座敷の眞ん中に起つて挨拶をた、氣が利かぬ先生と見ねて馬鹿に長遠よる、漸く一時間許り經つてヤツさ濟んだ、ヤレ〳〵と思ふと又フロックを着た先生が現はれた、勿論來客の代表者である、所が此の先生が又馬鹿に長い、何んでも「東洋の形勢」はといふ事を五六度繰り返へした而も一同の者はさも感心相に聽いて居る、約二時間の大演說、杯を口にしたのは午後十一時だ……

●筆止る　みどり

星斗天に在り、人蓋地に在り……一向詩的に非ず、落花庭に搖曳し鬼あざみ地に笑ふ美的に非ず、寧ろ厭惜的なり、藝者を客、酒と肴、泣く兒にれ乳、タドンに火鉢、之れ自然の附き者なり、蝶々〳〵菜のはに止り、菜のはが飽いたら櫻の花に之れ自然主義にして而も欲張主義なり、酒が飽いたらビールを上げよ……ソンナ唱歌はあらざるなり……書き來つて筆止る、止る筈だよ出鱈目なればなり。

●平壤浮碧樓偶感　雲烟

荒城廢礎任人剛。百里平原指顧間。夜雨宵燈新市街。片雲缺月古門關。長城一面溶々水。大野東頭點々山。（後聯用古人句）試問往時天不答。牡丹臺下鳥空還。

佐倉宗吾（七十）　眞龍齋貞水講演

日本開けて以來、義民の頭領と謂はれた木內宗五郎は、茲に堀田樣の御門前にて、立腹を切るより外に手段なしと、幾度も思ひ返しつ、思ひ定めましたから、そこで酒井雅樂頭樣へ、思召の有難かりし御禮狀一通、凌雲院樣へ一通、御手代り圓珠院樣へ一通、御部屋衆へ長々御世話になつた禮狀一通、都合四通の遺書を認め了り、脇差を前に置いて、庶幾の事に、死んでの後、妻子の許へ御沙汰あるやうにと、妻子に對する一本の手紙をも認め、東叡山寬永寺の九つの鐘を合圖に、黑門を出で、堀田樣の屋敷へ往かうと、時刻の來るのを待つてゐると、スーツ、開いた、後ろの襖、何人ならんと、振返つて見ると、御手代り圓珠院樣、御手代り圓珠院樣と申し上げるのは、是は寺の納所や何かと異うのでございまして、上野の御手代りと謂へば、凌雲院大僧正の御病氣でもある時は、其代りの御役を御勤めになるのだから、凌雲院樣と少しも異はぬ御會釋を蒙る方で、武家なれば若殿樣、商家なれば若旦那と謂ふやうなものでございまして、順に後を襲ぐ御方でございますから、なか〳〵尊い御役でございます、其御手代りの圓珠院樣が御來になりましたから、宗五は驚いて、宗「ア斯りや誰方樣かと心得ましたら圓珠院樣でございますか」圓「オウ宗五郎、大分夜も更けましたな」宗「ハイ」圓「まだ眠らずに居るか」宗「ハイ」圓「イヤ、私が今、此處へ來たのは、外の事ではない、れ前が今夜決心を致した其容子は概略聞いたやうだが、後ろに立つて心得ねました」宗「エッ」圓「其方は堀田の上屋敷で、腹を切る所存であらうが」宗「イエ……何う致しまして、左樣な事はございませぬ、…ば私は、御大老樣の御情けや、凌雲院樣、その他法親王樣の、御引立を蒙つて居りますから、決して左樣な最後を遂げる者ではございませぬ、一日千秋の思ひをなして…しながら、…に願ひが屆くであらうと存じまして、それのみ御待ち申して居りまする」圓「イヤ、それは宗五偽りぢや、其身が今この隱した五通の遺書は、今宵九ッの鐘を合圖に、堀田原の上屋敷へ往つて、訴狀を致し腹を切らうと云ふ覺悟であらう、此圓珠院は疾にそれと覺つたぞ、併し宗五郎、左樣な短慮を致さぬでも、是迄の間、凌雲院樣はじめ、皆樣が御心配遊ばされたに依つて、兎に角此處は、此方の申す事を聽かつしやい」宗「ヘエー」圓「それは外ではない、當上樣は、來る十二月二十日、この靈谷の三代將軍樣の御靈屋へ御參詣、當日は無論、大僧正凌雲院殿が、御出勤になるので、只今は御病氣であらせらるゝにより、此圓珠院が大僧正の法衣を着け、御名代を勤むるのである、依つて其時其方は階下の處へ忍び居つて、上樣が御入りを待ち願書を差出せ、御賢明なる將軍家なれば、必ず共に御採上に相成り、堀田家は上の御威光にて御沙汰を蒙り、領分の百姓一同が安堵の思ひをなす事であらうと存ずる」宗「ハ、ハアーッ」と有繁の宗吾郎も、之を伺つた時には、殆ど圓珠院樣の御顏を覗き込んで居りましたが、宗「旦那樣、その思召は誠に有難く存じますが、左樣なる事を匹夫の私が致しますれば、定めし御上御役人樣方は、御迷惑を遊ばすでございませう、殊に凌雲院樣は勿論、貴下樣の御迷惑は、如何ばかりと存じます」圓「イヤ、それは無論の事ぢやが、其時こそは愚僧は自害して相果てるのぢや」宗「ヘーエ、此宗吾のため、貴下樣が生命を捨てゝまでも、御手引下さると云ふは、勿体至極もございませぬ、夫れながら貴下樣は、御容子を承りますれば近々凌雲院樣の御後を御引受遊ばして大僧正となり、上野三十六坊の御取締を遊ばさるゝ御身の上との事、それが私風情のため生命までも御捨て下さると云ふは、一体どう云ふ事情でございませうか」と、宗吾は余りの御厚意に不審を抱き、御尋ね申し上げました

社說 京城新報

所謂大同團結

韓國議會の開設

漢城政界の現狀を瞥見するに近來稍々眞面目の徴候を呈し來れり、從來の如く如何なる陰險手段を採るも唯政權を握らんとする狂的傾向は漸次減退せんとしつゝあり、是れ彼等が陰謀や術策のみにては到底政權を握手する能はざるを自覺し、政見の上に於て公然爭はざる可らずとの觀念萌さゞるが爲ならん乎、現に一進會の如き陽に[illegible]を標榜し稍ともすれば帝國の官憲に對し脅迫がましき態度を取り、或は內閣に向て威迫的の辭職勸告をなす等、主義の爭に非ずして唯夫れ政權若しくは或者を得んとする陋劣なる行爲のみ多かりき、然るに頃者會員中に革新派なる者出現し、從來の如き行動を廢除し主義政見の上に爭はんことを主張し、宋秉畯及李容九の如き舊來の政權狂徒を排斥せんと呼號しつゝありと、果して事實なるや否は知らずと雖も、兎も角も斯る說を唱る者あるに至れるは幾分眞面目に近づきたるの標徴なり、大韓協會の如きも然りとしたりしが、近來の態度は稍々沈着となり、內閣の彈劾或は感情的の攻擊のみを事とせず政見に依りて爭はんとする傾向あり、首領金嘉鎭の如きは現閣と政見合致せる爲に入閣するとの說あり、何れにしても此等の政治的結社が斯く眞面目に接近せんとするは甚だ喜ぶべき事なりとす、然れども未だ是れ一の徴候に過ぎず、眞に政治的結合をなさんとすれば其標目たるべき健全なる目的なかる可らず、今日の一進會と云ひ大韓協會と云ひ何れも朋黨結社のみ、議會を開設せざれば眞の政黨は成立せざる也、茲に於て余輩が嘗きに唱道したる韓國議會を開設するの必要あり、嘗きにも論じたる如く此議會たるや韓國現時の程度に於て立憲國の議院の如く立法權を與ふるに非ずして、各道の有識者を撰で保護政廳及內閣の諮問事項を議せしめ、或は民間の事情を論議して當局者の參考に供するとせば可也、斯くして漢城政治の弊を轉じて全國政治となさば民情疏通して政治の改善に資する所蓋し鮮少にあらざらむ、斯の如くにして韓國議會の開設さるゝに至り改見を發表するの機關とならば、茲に眞面目なる政黨結社成立して從來の如き壯士的運動は自然に廢滅するに至るべし、是を以て余輩は一進會も大韓協會も其他の政客等も議會開設の目標の下に所謂大同團結をなすべし、是れ實に穩健にして韓國現時の情勢に於て最も機宜を得たるの問題也、徒に舊時を夢想して陰謀術數に依り政權爭奪に狂動し覺醒せざるに於ては卿等の前途は唯暗黑あるのみ、世事万端一足飛びに進歩するものに非ず、先づ以て議會を設けて輿論政治の端を啓き、漸次兩班政治の風を國民政治に改めざる可らず、て[illegible]國民をし[illegible]しむるを要す、余輩は韓人が[illegible]黨結社の弊風を洗除して、穩健なる目的則ち韓國議會開設に就て合同一致して伊藤統監に請願するの擧に出でんことを勸告するもの也、

東京電報

▲**新拘引代議士** 日糖事件に關し進歩黨前代議士山口龍太郎又新會代議士西村丹次郎(岡山縣撰出)の二氏本日新に拘引狀を發せられたる 西村は行衛不明となれり(二日發)

▲**新政黨問題再燃** 進歩黨、大同倶樂部、又新會の有志は新政黨問題に關し活動を開始せり(同上)

▲**上院補欠選擧** 貴族院議員補缺選擧に關し談話會と尚友會との間に激烈なる競爭を爲しつゝあり(同上)

▲**統監の進退** 伊藤統監の進退に就きては未だ確定するに至らざるも終に辭任するに至るべしとは消息通の觀測する所なり(同上)

▲**個人救濟問題** 日露戰役損害に基く個人救濟は貿易業者の保護通商發展を主眼とするものにして雇人等に對しても該法を適用するや否やは委員會にて研究中なり

▲**東拓株券交附** 東洋拓殖會社東京支社は株券交附期限を五日延期するならん

▲**參謀長の會議** 參謀長會議は今朝より開會せり(以上三日發)

外報一束

●**露官の强情** 露國貿易事務官パパウフ氏一行內蒙古兆南府に至り駐在を請ひしも開放地ならざる故を以て淸國官憲より拒絕されたるも撤退の意なく目下同地にて土地を借入れ不法にも官署の建築を爲しつゝあり

●**猛獸狩消息** ロ氏は亞弗利加の氣候に胃されたるも毫も之に屈するの色なくキャピチー平原に於て活動しつゝありと尙今後ロ氏が活動すべき場所には獅子水牛など群を爲し居れりと

●**土國の大殺戮** アドナ市にれいてアルメニヤ人の大殺戮あり土耳其軍隊も之に參與せり依てメルシナ港に碇泊中の各國軍艦は軍隊を上陸せしめんと考慮中なり

●**英國の財政難** 英國大藏尙書ロイドジョルヂ氏は豫算不足を塡補せん爲千五百万磅を要求せり右金額の四分の三は養老年金に對する非常支出にして其の四分一は海軍費に充つるものなりと尙英國外國貿易は殆ど一億五千四百萬磅の減少を示せり又國債償還基金は中止を見るべしと斯待せらる

●**極東日露兵力比較** 軍事專通の調査せる所に據れば露國が直接極東に使用し得る現下の全兵力は戰時歩兵二百六十大隊[illegible]八大隊を加算す(砲兵百五十二中隊(砲數千百七十二門) 騎砲十二中隊(十八門)を含む 騎兵百九十中隊にして之に對して日本の同兵員は歩兵二百八十大[illegible]二百中隊(砲數千二百門後備二十中隊重砲二十五中隊を含む)騎兵九十二中隊(後備十中隊を含む)にして卽ち歩兵に於て十五大隊砲兵に於て四十九中隊多きも騎兵に於て[illegible]

各種

●**陸路貿易の無稅** 自由港廢止と共に稅關法第九百三十三條廢止の結果淸國より陸路運輸貨物に課稅することゝなりたるも露淸兩國商人等運動の結果露國內閣は同條項の廢止を千九百十一年一月まで延期することを議決せりと

雜報

●**東拓貸付規則** 豫て報導したる東拓會社の貸付規則は愈昨三日其筋より認可されたるが全文十一條の內第九條荷爲替に關する件を削除されしが而して其內容を見るに貸代の爲め鑑定を要する時は費用を前納すること、貸付の方法、期限及据置期間は金額使用の目的、事業の難易並に收益の多寡等に依り之れを定むること、不動產の貸付は鑑定價格三分の二以內なること、建物は付保險證書を付すること、農產物の貸付には指定倉庫にありて保險證のあること等なり

●**韓人に握手を賜ふ** 去月卅日午前十時卅分韓皇太子には伊藤統監同乘宮中に參內あり此日陛下には大元帥の御軍裝に日韓兩國の勳章を御佩用德大寺侍從長を隨へさせられ鳳凰間に出御、親しく韓太子に對顏あり韓太子には統監と共に閔泳韶、金宗漢、李定植、李重夏、朴容大、李軒鄕、閔炯植の元老を率ゐ御前に進み陛下には閔泳韶氏以下順次に握手を賜ひ武田通譯官の通譯により左の意味の優詔を賜はりたり

卿等が遙々來遊せしは寔に喜ばしき事なり文物制度委細に見たりや尙十分に視察せんことを望む

右に對し一同を代表して閔泳韶氏は左の意味の奉答をなせり

今回の來遊に際し貴皇室の御優待は勿論到る所熱心なる歡迎を受けたるは深く感謝し奉る所なり又我皇太子殿下に對する優待に對しては是亦我々の非常に歡喜する所なり

右終つて別殿に於て茶菓を賜はり宮中拜觀の後十二時退出したりと

●**財務監督局長會議** 豫て報導したる財務監督局長會議は愈昨三日午前十時より度支部に於て開會せしが度支部本省よりは鈴木司稅局長、藤川書記官、平野事務官吉田(政治)書記官及吉田(格之進)書記官列席の上既報の新稅施行と驛屯土引繼に就ての議題を提出し後鈴木局長の演說ありたるが地方より參集せる者左の如し

漢城 小林重　平壤 矢野久三郎
大邱 川上常郎　全州 佐々木正太
公州 矢鍋永三郎　元山 堀諫(未着)

●**韓皇室の養蠶準備** 韓國皇后には蠶業獎勵の意志を以て養蠶の御企てありたることは既報の如くなるが愈々五月一日より秘園內書房閣を以て蠶室とし日韓婦人各一名詰切の上之れが準備中にて二日には農商工部の岩田技師も同所へ到りて種々斡旋するところありたりと

●**警官特別任用令** 韓國警察官特別任用令全文六ヶ條は五月一日付勅令第五十七號を以て三日の官報にて發布されたり其要旨は(一)警視及警部は文官任用令に依る外本令に依り之を任用する事を得(二)警視は滿二ヶ年以上警部の職を繼勤し現に四級俸以上を受け成績優等なる者の內より高等銓衡委員の銓衡を經て此を任用す因に本令は發布の日より施行すと

●**地方官會議ご意見** 既報の如く內部にては本年度に於て地方官會議を開催すべきに付き目下各道より意見書及諮問事項を徴しつゝありと云ふ

●**地方官の資格審查** 地方官資格審查委員會に於ては不日各道觀察使の推薦に係る郡守候補者の資格審查を爲すべしと云ふ

●**漁業に關する交涉** 豫て農商工部水產局より軍港たる鎭海灣及永興灣の漁業に關し交涉中なることは既報の如くなるが今回鎭海灣防備隊長よりの回答ありたるが多少の條件を附して許可することゝなりたりと

●**畜牛輸出禁止解除** 咸鏡北道に於ては嚮きに牛疫猖獗を極めたるに依り同地方に於ける畜牛の輸出を禁止したる由は既報の如くなるが過般來漸次閉熄しつゝあるを以て不日一部の輸出禁止を解除するに至るべしと

●**川崎民長の不信任** 元山川崎民長の不評判不信認は今や絕頂に達したるが過日副統監の來元を幸ひ元山有志者三百六十餘名は連署を以て川崎民長不信認の條々を列擧し陳情書を作り理事官々舍に副統監を訪問したるも折柄副統監は食事中なりしを以て國府秘書官に面會し詳しく來意を述べて陳情書を差し出して引きとりたりと云ふ

●**城壁取毀の實行** 京城其他各道に存在する城壁の取毀方に就きては特に城壁處理委員會なるものを設けて之れを處理し來りたるも昨年同委員會を廢止して城壁に關する事務を內部地方局及土木局に移したる於兩局に於ては爾來地方の人情交通等に鑑み必要に應じて之れが處理を爲しつゝありと云ふ

●**東拓監事の入京** 既報の如く東拓會社監事子爵松平直平、同野田卯太郎の兩氏は二日入京巴城館に投宿したるが昨三日東拓會社に出社したりと

●**京城圖書館の設置** 京城敎育會の發企に係る京城圖書館設置の件に就き過般三浦理事官、隈本、本田兩學部書記官、增戶師範敎監、熊谷民長、曾我、中村、山口の各民團議員を設立委員に撰定し理事廳に於て敷地其他に就き凝議する處ありたる結果南山に約二百坪の土地をトし同地に約五千圓を投じて館舍を建築することに決し三浦理事官、熊谷民長、中村議員等實地を踏查したりと云ふ尙同館設立に要する經費は統監府の補助敎育會及其他有志の寄附に依るべしと云ふ

●**ベッセルの葬儀** 再昨一日午前十一時西大門外の自宅に於て死去したる例のベッセルの葬儀は二日午後三時三十分自宅出棺六時北署合井里に埋葬したるが會葬者は英國、獨國、伊國の各總領事、救世軍大佐ボッカード及び大韓每日の梁起鐸同申采浩其他外國人男約二十名女十五名韓人二十名學校生徒數名なりしと

●**戰死者招魂祭執行** 京城民團にては明後六日午前十時より倭城台に於て招魂祭を執行する由尙午後三時より神樂を開くべしとの事なり

●**關稅收入增超** 韓國々稅中第二位を占むる關稅收入昨年度の豫算額は二百五十二万餘圓なるが實收額は三百二十七万餘圓に達し約七十萬圓の收入超過を示せり其の輸出入內譯左の如し

輸入稅	二百五十一万千〇二十三圓
輸出稅	六十六萬八千八百十五圓
噸稅	九萬一千九百五十一圓
合計	三百二十七萬千七百八十九圓

尙前年に比すれば十萬餘圓の增收なりと

●**副統監の行程** 目下南韓視察中の曾禰副統監の行程左の如し

地名	到着	出發
統營	三日前九時	同日前十時
三千浦	同日後〇時半	同日後二時
麗水	同日後五時	四日前五時
羅老島	四日前八時	同日前九時
莞島	同日後一時	同日後二時
巨文島	同日後五時	五日前五時
濟州島	五日前九時	同日正午
木浦	六日前九時	七日前五時
群山	七日後三時	八日前五時
仁川	八日後七時	

因みに天候の都合に依り濟州島には立寄らざるやも計られずと

●**學務主事の視察** 今般任命の學務擔任の主事一同は本日師範學校外國語學校等を視察したり

●**全州の養蠶傳習所** 全州韓人某は同地東門外に養蠶傳習所設立を計畫し豫て道廳を經て其筋に設立認可申請中なりしが去月二十六日農商工部より認可の指令達せりと

●**南岸副燈臺の新設** 關稅局にては韓國南岸港門島附近の出雲礁の位置を示す爲め今回港門島の本燈臺を距る南方七十四度西距離約四海里半の地點に副燈臺を設置し燈火は第六等紅色其光達距離は二海里なりと

●**平壤小學校生徒數** 平壤小學校の在學兒童數を聞くに本年度の新入學數は九十九名にして之に在來の生徒數を加ふれば男二百六十四名、女二百五十七名合計五百二十一名なりといふ

●**永興灣內の暗礁** 永興灣內陽日里の沖合二海里計りの處に暗礁を發見したるが其周圍には外塲を設け日章旗を立て危險を知せあれば一般航海者充分に注意せざるべからずと過日元山理事廳より公示ありたり

●**大邱地方蠶業狀況** 去月廿七日より二十八日に及べる暴風雨のため漆谷郡長壽洞にては桑芽の被害二分以上あり又た云長壽洞は日向なるより桑芽三寸以上に發育せり

●**城津四月中旬貿易** 四月中旬に於ける城津の貿易は輸出八百〇一圓にして重なるものは大豆小豆の七百七十五圓なり輸入は千二百八十二圓にして重なるものは砂[illegible]

●**品評會の審查終了** 平壤に於て目下開催中の勸業品評會出品物審查は開會[illegible]より會場階上に於て審查中なりしが一日を以て終了したりと授賞數は左の如し[illegible]

●**淸津天然痘の猖獗** 淸津理事廳より其筋に達したる通報に依れば淸津管內茂山村內にては天然痘猖獗を極め近々數日內に十二名の患者發生せりと云ふ

●**京城文庫圖書科目** 壽町の同文庫にては二月七日開始以來四月三十日に至る迄の閱覽者總計二百五十一人なるが閱覽圖書種目及冊數は左の如し

第一門宗敎三冊第二門哲學五冊敎育二十七冊第三門文學七十二冊語學二十八冊第四門歷史百四十二冊傳記十六冊地理五冊紀行一冊第五門國家學十二冊法律學百六十一冊經濟學百五十冊財政學二十冊社會學二冊統計學三十冊第六門數學五冊理學二冊醫學一冊第七門美術三冊諸藝二十五冊產業四十五冊第八門類書二冊叢書五冊隨筆一冊雜書二十二冊外新聞百四十冊雜誌二百三十冊

●**電通支局の移轉** 日本電報通信社京城支局は二日旭町三丁目(名古屋城隣)に移轉す

●**筑前人會の盛會** 筑前人會は昨二日煙火の合圖に正午南山に於て開會したるが來會は約一百名、酒肴名物の博多仁輪加及筑前琵琶等の餘興ありて頗る盛會を極め午後五時散會したりと

●**岡次官の病氣引籠** 岡內部次官は風邪の爲め去る一日以來自宅に引籠り靜養中

●**松井局長の東京着** 松井警務局長は一昨二日午后十一時東京に到着したる旨其の筋に電報ありたりと

●**菊池商工局長來任** 既報新任農商工部商工局長菊池武一氏は愈々來る明日着任すべしといふ

●**勝田局長出發變更** 勝田理財局長の一行は三日東京發來韓の筈なりしも四日午後出發のことに變更したりと

●**齋藤間島出張所長** 同氏は一日釜山を出張し歸任の途に就けり

●**赤倉書記官の上京** 度支部臨時財產整理局の赤倉書記官は昨日東京へ向出發せり

●**四王天事務官歸任** 平壤及新義州方面へ會計事務取調べの爲め出張中なりしが豫定を變更し二日歸任せり

●**菱田囑托の歸任** 統監府菱田囑托は二日歸任せり

●**佐藤忍氏の出發** 滯在中なりし報知新聞記者佐藤忍氏は三日當地出發北韓に赴き視察を了り次第直に歸東する由

●**數物學會の改稱** 本町[illegible]の裏なる數物學會は今回旭町一丁目に移轉し同時に京城學會と改稱せしが入學申込者却々多しと

●**叙任辭令**

兼補城津警察署長 警視 原龍橋
大韓醫院醫官囑托 藤井虎彥
兼囑托大韓醫院敎授

公人私人

▲寺尾規矩郞(關稅局書記官) 一日新義州へ向ふ
▲佐久間資次郞(佛國金礦技師) 同日平壤に向ふ
▲中島三郞(江陵金融組合理事) 一日入京三日月
▲矢鍋永三郞(公州財務監督局長) 同上不知火
▲岡崎遠光(日韓瓦斯會社取締) 同上天眞樓
▲佐々熊太郎(東亞煙草會社長) 同上巴城館
▲矢野久三郎(平壤財務監督局長) 同上浦尾
▲早川省三(平安農工銀行副支配人) 二日平壤へ
▲佐藤忍(報知新聞記者) 同日安東縣へ
▲久水三郎(元山理事官) 二日入京浦尾
▲森本充安(島根縣事務官) 一日平壤へ向け出發
▲片野淑人(同縣遞摩郡長) 同上
▲名和勝(豫原金融組合理事) 二日入京三日月
▲三田府三郎(畜產事務囑托) 三日歸任
▲菱田靜治(統監府囑托) 東京釜山馬山へ出張中二日歸任す
▲齋藤末次郞氏(間島派出所長) 一日釜山發歸任せり

近事片々

▲我 聖上陛下の御仁慈保護國に及べる大御心の程最いも畏し唯々感佩し奉つる也
▲觀光 團の閔泳韶以下に對して握手を賜はる、彼元老等の幸多唯々恐懼の外なからむ
▲卿等 の來遊喜ばし文物制度を委細に見たるや尙十分に視察せよとの御諚を賜はる
▲保護 國の一元老に對してすら斯くも厚き御諚有韓國の事に軫念あらせ給ふや明也
▲韓國 民たる者須く我 聖上陛下の御仁慈の深を辨へ專心御恩澤に浴する誠意あれ
▲我が 陛下の御威德は洽く滿韓の點に及ぶ在外邦人たる者大に發憤せざる可らず
▲一進 會內革新派なる者出現し舊來の弊を打破し健全なる結社にせんと主張すと
▲其手 始に宋秉畯李容九等の政權爭奪的分子を驅逐せんと呼號す事實ならば甚好矣
▲大韓 協會と現閣とは頃者大に融和して金嘉鎭入閣の說あり果して事實なりや否や
▲尹孝 定吳世昌の連中は觀察使たらんと人物としては或は現時の觀察使に優るべし
▲現閣 たる者宜敷虛心平氣にして適材を拔擢するの方法を取れ從來の族閥は甚だ非
▲東京 每日會禰荒助評は一寸面白く審かる不得要領所謂茫漠の解剖は最も適切なり
▲西鄕 從道大山巖に私淑して其堂に入らず所謂異似て酔ならざる者とは極て適評也
▲實際 山縣系中に於て毛色の變れるもの然し近來得意の蠻勇は更に揮はず空々寂々
▲麒麟 も老いて駑馬に及はず矢張曾禰荒助君もれ年の加減か豈夫其年でもあるまい
▲露淸 陸路貿易の課說に兩國商人運動して漸く無稅となる韓露陸上貿易は如何にや
▲露淸 陸路貿易無稅ならば韓露陸上貿易も無論無稅でなくてはならぬ明瞭にすべし
▲保護 政廳たる統監府は宜しく之を告示すべし若し課稅ぜらるならば撤廢せしめよ
▲北韓 と露國との陸上貿易は浦港自由港廢止に就て最も切要の問題須く明瞭にせよ
▲李鳳 來歸り來る宋秉畯李容九等との協議の結果果して能く謀議が行はれしか何や
▲南山 太神宮境內の松樹に近來縊結びの紙を結び附る迷信男女頗る多しとの事なり
▲是を 以て見れば戀情に惱る〻男女が如何に多きかを知る出雲大社支[illegible]

●**天氣豫報** (自三日午後六時至四日午後六時)
北東の風曇少雨
三日 最高溫度 最低溫度 (華氏) 六七、八 [illegible]

●極東日露兵力比較

某軍事通の調査せる所に據れば露國が直接極東に使用し得る現下の全兵力は戰時歩兵二百六十五大隊(第一乃至第三西伯利亞豫備旅團が四倍に擴張せらるものとして四十八大隊を加算す)砲兵百五十二中隊(砲數千二百七十二門)騎砲十二中隊(九十六門)を含む騎兵百九十中隊[illegible]にして之に對して日本の同方面に出動し得べき兵員は歩兵二百八十大隊(後備五十大隊を含み守備隊を除く)砲兵は其の半數にも達せざる有樣なりと

一二百中隊(砲數千二百門後備二十中隊重砲二十五中隊を含む)騎兵九十二中隊(後備十中隊を含む)にして即ち歩兵に於て十五大隊砲兵に於て四十九中隊多きも騎兵に於ては

●大邱地方蠶業狀況 去月廿七日より二十八日に及べる暴風雨のため漆谷郡長壽洞にては桑芽の被害二分以上あり又た云長壽洞は日向なるより桑芽三寸以上に發育せりと概して蠶業はますく發展しありと

●城津四月中旬貿易 四月中旬に於ける城津の貿易は輸出八百〇一圓にて重もなるものは大豆小豆の七百七十五圓なり輸入は千二百八十二圓にして重もなるものは砂糖の四百圓日本木綿の百四十四圓なりと

●品評會の審査終了 平壤に於て目下開催中の物産品評會出品物審査は開會以來會場階上に於て審査中なりしが一日を以て終了したりと授賞數は左の如し 農産品三三八点、林産品九点、工藝五一農具類六点、鑛産品一点

雙影(四) 南船北馬樓主人

第二章 落膽(壹)

廓の戀は當座の花で、而かも徒花、散つて了へばあとには何にも殘らぬのが普通であるけれども、君子は特別で、彼女の心情は彼等の社會には奇らしい程、不思議に美しい處があつて、總てが眞情流露であるから假令朋輩や他の客から、三十日の月などと嘲笑はれても、自分は一向平氣なもので、之れと思ひ込んだ山田のためには、隨分浮身を窶したのである、然るに俄然、此の手紙……今までのは夢と思つて、機嫌よく諦らめて呉れと……何うして是れが諦らめらるゝものか、昨日までも今日までも、一生懸命に思ひ込んで、勤氣離れた誠も見せて、隨分苦勞もしたのだもの、ゑれを今更譯も言はずに唯たこの儘に諦らめろと、那麼、那麼情ない話があるものか、

「姐さん、車を一臺呼んで頂戴、妾、これから行つて來るわ。」

○　○　○　○　○　○

君子は無理矢理に家を出たが、何處を甚麼に廻つて來たものか、點燈頃に歸つて來たが迎へるのに、「れや、君子さん、た歸り」と、下女のれ竹が「ね」と首背いたばかり、莞爾ともせず、つかくと二階へ上りかけたが、一寸振り返へつて

「仲居さんは。」と問ふ

「帳場に。」と言はれて、

「さう」と立ち戻つて、襖を開けると开處には女將と仲居とが何やらヒソくと語つて居る、

「只今。」と靜と入ると、

「れや、君ちやんかへ、まあ隨分遲そかつたわね、」と女將が云ふ、

「ね、」とばかり、ぱつたり坐つて、息を發ませながら、

「姐さん、ちよいとまあ、水を頂戴な。」

「怎うしたの、れ前さん、怖ろしく顏色が惡るいぢやないかね。」

「いゝね、怎うもしやしないの。」と強いて靜かに答へたが。大きなコップで二三杯、續けさまに水を呷る。女將が心配して

「これ、怎うするのだよ、那麼に水を。」と云ふのを構はず、殘れる水をグッと飮んで

「姐さん、ちよいと。」

「何處へす」

「ちよいと二階へ來て下さいな。」と煙に卷かれた仲居の手を執つて、二階へ無理矢理に上つて往つたが、階子段の上に盡きるや否や、部屋に入る間もあらせず、肱に縋つてわアッと泣いて

「姐さん、妾、何うしませう。」

●南山の變死者 ▲熟醉して斷崖より落つ

一昨日曜日は天氣殊の外晴朗なりしかば南山公園邊りで德利と首曳きせし連中も頗る多かりしが玆に富山縣中新川郡弓庄村生れ北米倉町新炭商河村保方雇人黑澤梅次郎(二十五)は當日午後主人の保外四五名と共に南山に遊び牛飲馬食を極め込んだる揚句他の連中は歸宅したるにも係はらず保と兩人は南山の絕頂に上り破れ聲を張り上げて詩吟等を唸り大に快を盡して歸途に就く際近道を辿らんとて保の止むるをも聞かばこそ醉の元氣に乘じて岡山南方の岩石嵯峨たる斷崖の處より辷り降りつゝありし際誤つて高さ八十間の斷崖より落下し數ヶ所に打撲傷を受け瀕死に迫りたるを保が保護し擔軍二名に背負して旭町安東病院に連れ行き治療を乞ひしも腦震蕩を起して午後六時遂に死亡したるが是等は全く酒の爲め命を捨てたる者と云ふべし

●少女の發狂 仁川新町二丁目村屋ヤス(十六)と云ふは十日程以前より精神に異狀を來し纒まりの付かぬ事を饒舌るより實父太重は松本病院に入院せしめたる所此頃に至りてヤスは看病せる實父の熟睡せる隙を窺ひ茶色の帽子を抱きてはあらぬ事を叫び立て果ては部屋中を驅け廻り亂暴に及ぶにぞ近所のものは恐ろしさに堪へず警察に之れが處分方を願ひ出でたりと

●擔軍を撲る 明治町二丁目菓子製造業門野李太郎(三十)は去る一日午後一時頃明洞院居住の擔軍崔須弼(五十)に菓子三十斤計りを背負しめて南大門通り松田菓子店迄至りとて門野方に來り頻りに增金を請求せしが李太郎は五月蠅しとて戶外に突出さんとする際崔が李太郎の橫腹を突きたりとて摺子木を以て崔を亂打し頭部眉間等に打撲傷を負はしめたる騷ぎに巡査出張して李太郎を引致目下取調中

●拾得者の奇特 本町九丁目三十九番戶桑田辰雄は一昨夜京城座に芝居見物に行きしに木戶口にて皮製財布金十一圓在中のものを拾得し臨監の警官に屆出でしが遺失者は本町七丁目片倉熊吉方藤村友一なる事判明し藤村よりは謝禮として金一圓を渡せしを桑田は其儘警官の手を經て之を行路病者收容所へ寄附したりと奇特と云ふべし

●仁川藝妓の腕比 仁川檢番藝妓諸君が前月中の賣上順を聞くに左の如し尤も香取、鹿島の二君は月末の店出しなれば末席は止むを得ざる次第又福之助君は流石に河〇君が破產してまで注ぎ込んだる甲斐ありて目出度く第一位を占めてのけたり

福之助、小鶴、吉彌、勇子、君之助、梅八、勝利、富美子、小富士、一福、一勇、駒殿一昇、丸八、濟治、笑子、榮吉、福太郎、君江梅奴、かよ、とみ、愛子、久松、咲太郎、光子琴代、勢子、增菊、若蝶、小梅、町奴、鈴子、駒蝶、桃太郎、三桝、芳蝶、れぼて、一駒、千代田、力彌、花奴、駒助、友江、れもちや、濟子、增龍、香取、鹿島

●岡山縣人會 同會は去る二日午後二時より新築の掬翠樓に於て開催したるが會する者約百名先づ會員一同撮影し終つて渡邊幹事開會の挨拶を爲し續いて各自渡鮮後の所感を述ぶる事となり酒井勇四郞氏は縣人の發展法に就て牧野豐田氏は京城商人の現況、松尾旭邦氏は京城の開拓と花房子との關係に就て各氣焰を吐きたるが就中島家濟孜氏の諧謔的祝文の朗讀は當日の白眉にて滿場の哄笑を買ひたり其れより宴に移り校書數番の手踊り會員の隱藝等續出し歡を極めて散會せしは午後六時頃なりと

●天理敎開講式 神道天理敎京城宣敎所は這回統監府より其設立を認可せられしを以て去る一日午後一時より壽町三丁目の同所に其開講式を揚げたり當日は特に本部より韓國布敎總監督として權大敎正を派遣して臨席せしめ先づ式は祭主大熊氏に依つて開かれ形の如く式を終り參列者總代さ

●敷島遊廓揚高 四月中の敷島遊廓揚高は三月に比し客數に於て百四十三人金額に於て二百九十九圓の增加を見たるが今各樓を分別すれば左の如し

樓名	客數	廓蕩費
一山樓	三三一人	一七五五圓
日進樓	三〇二	八七〇
朝日樓	一六一	七七九
第二敷島樓	二五四	六八一
吾妻樓	一六四	六四〇
敷島樓	一三八	六一三
深川樓	八九	三五九
高砂樓	一七四	二八〇
第二高砂樓	一三五	二五五
合計	一、六四八	六、二三五

●豆腐賣は泥棒 仁川京町二丁目荒木米太郞方にて昨日午後六時頃柱に掛けありし懷中時計が何時の間にやら見えぬ樣になりたれば種々調べたる所其時來りし韓人豆腐賣が盜みたるものと判明し警察署に屆出ず

●美身料の賣行盛況 從來貴婦人間唯一の美身料として好評なりしクラブ洗粉は近來男子間にも盛んに愛用せられ爲めに製產額も頗みに增加して化粧品界中の第一位を占むる迄に至り昨今工場の增築に伴ふて一層製品に意を用ひ配合品、香料等尤も嗜好に適し皮膚保護上の効顯る驗しと

●足踏精米麥機械 大阪市西區江戶堀橋南入福井商會にては今回足踏精米麥機械を

●搔浚ひ捕はる 仁川栗木洞朴德初(二十五)と云ふは宮町一丁目和田洋物店の店頭にありし物品を誤間化して逃げ去らんとするを店員が引つ捕へ其筋へ突き出す

●花月の新妓 大坂市西區立賣堀北通二丁目十一番地平民常吉長女春木ウタ(十四)は藝名を小千代と名乘り昨日花月樓よりヘイ今晩は……

●韓語獨習

日語	韓語
初一日	チョーハルンナル
初五日	チョータッソエンナル
初八日	チョーイヨーテツレンナル
初十日	チョーイヨルフルラル

月の一日より十日迄は各數字に初の字を冠す

日語	韓語
十一日	イヨルハロヌナル
十五日(望日)	イヨルタッエンナル
二十一日	スムルーナル
二十七日	スイムイレンナル
晦日	クムムナル

▲近頃時候の加減か妻子を忘れて浮れ歩行く者が澤山ある相だが大いに愼むべし(天の神)▲六丁目の下駄屋の娘さん此の頃どんと噂なし今尙健在なりや(色男)▲新町一丁目派出所筋向ひなる烟草屋の妻君は店先に坐つて御亭主は其の横に寐轉んで居ながらチヨイくと巫山戲て居る見つともないから注意しなよ(煙草買)▲長崎縣人にて佐藤コノと云ふ人京城より十里斗り離れし地にて人に嫁し居らるゝ由風の便りに聞きしが住所御存知の方あらば本欄にて御敎へ下さい(みつ)▲本町七丁目小間物屋のハイカラ娘さんは實に美人で愛嬌があつて每日店先に座つて居るが嫁に貰いたいものだ(買い度生)▲親類ちやあるまいし此樣相談を持ち込まれるのは困るとす(給仕)▲新町第一代のれ春さんよ生れは廣島でも氣前が宜い價値が下るよ(馴染客)▲本町六丁目橫の一機支店の右近さんよ表に出て客を引張るのは善くありませんよ此の後は止しなさい(立聽き生)▲南山町三丁目の坂の上の角の吉村と云ふ菓子屋の娘さんよ貴孃は每晚十二時頃迄店脇で讀書は實に感心しました此樣婦人が將來の良妻賢母でしよう(夜行隊長)▲支那人側の肥桶には蓋が無いので臭氣を放散すること甚だしい加ふるに其天秤棒が馬鹿くしく長いのにも閉口する何んとか取締りの方法なきか(閉口生)▲本町七丁目の永井と云ふ古着屋は親切なものだ(卷紙生)▲軍服帶劍のまゝ賣春婦の手を携へて散步する人を見受くる夜がある軍隊の威信に關係せぬか(一兵卒)▲出齒式投書の多き今日の如く甚だしきは未だ曾つてあるなし(係)

廣告

來ル五月六日午前十時倭城臺ニ於テ例年ノ通招魂祭執行候條御參拜相成度此段公告ス
明治四十二年五月四日
京城居留國民長 熊谷賴太郞

南大門附近 土地競賣廣告
一第一號宅地面積 八拾坪四合
一第二號宅地面積 三拾貳坪九合
一第三號宅地面積 貳拾九坪貳合四勺
一第四號宅地面積 拾壹坪壹合四勺
右土地各號毎ニ競賣ニ付ス希望者ハ入札人心得書及契約書案並ニ實地熟覽ノ上來ル五月十八日午後二時限リ本部ニ出頭シ保證金ヲ添ヘ入札スヘシ
但即時開札ス
入札保證金ハ見積額ノ百分ノ十以上トス
此契約ハ度支部會計課長久芳直介擔任ス
隆熙三年五月 度支部

大阪新報 販賣店變更
新販賣店 大成社
舊販賣店 乙巳商會
右之通賣捌所を變更致し迅速確實に配達爲致可申候間一層御愛讀之程奉願上候尤も四月分以降の集金は大成社をして取扱はしめ候間左樣御了承被成度候
五月三日 大阪新報販賣部

●大韓醫院綳帶洗濯場其他新設工事
右五月十八日入札ニ附ス詳細ハ三日以後ノ官報又ハ當所ノ揭示ヲ見ヨ
建築所

●仁川稅關長官舍表門板塀其他新築工事
右五月十八日入札ニ附ス詳細ハ三日以後ノ官報又ハ當所若クハ仁川出張所ノ揭示ヲ見ヨ
建築所

●海州警部官舍其他新築工事
右五月十九日入札ニ附ス詳細ハ三日以後ノ官報又ハ當所若クハ仁川出張所、海州警察署ノ揭示ヲ見ヨ
建築所

滯京中は不一方御厚意を受け奉深謝候今回至急當地を出發することと相成乍不本意御挨拶も爲兼候間一應新紙上にて右御禮申上候
辱知各位 佐藤忍

●天氣豫報(自三日午後六時至四日午後六時)
北東の風曇少雨

三日	(華氏)
最高溫度	六七、八
最低溫度	四四、四

▲無料紹介欄▼

人事部

多少法律事務に心得ある事務員一人雇ひ入れたし希望者は午前九時御越の事 明治町二の七五岩田辯護士（二三三）

下女入用 年齢不問 **給金** 働き次第 氏名在社（二三二）

雇われたし 家族少なき家を望む十九女 （氏名在社）

十六七の**職弟子入用** 但し當地に確實なる保證人有者 明治町一丁目 衛生床（二三五）

年十七高等小學卒業商店又は役所の給仕に雇はれたし 氏名在社（二三八）

年廿五体強簿記精通會社商店へ雇はれたし確實保證人あり給料多額を望まず 氏名在社（二四〇）

中等教育有り七八年判任文官奉職何れにても雇はれたし給料望まず確實保證人あり 氏名在社（二三九）

長崎縣人**佐藤コノ** 上記の人住所御存知の方は乍御手數京城旭町一丁目池田質店迄御報を乞ふ（二四五）

年三十体強血正月收一〇〇相當の品格ある處女と結婚したし 氏名在社（三四六）

女中入用年齢問はず清潔好きの者身元保證人を要す 南山町一の四七 月報社篠塚

●雇入 十五歳以上二十歳以下丁稚至急入用 龍山元町三 日韓組

物件部

賣家 大和町三丁目地百餘坪の建物あり官吏向に適し風景最もよし望の方は御來談あれ 社内 矢島

貸（離れ） 旭町一丁目至極便利の場所電話附（又は賄附にても）にて二間貸したし 氏名在社（二三五）

貸家 若草町一溫突一間疊敷二間日本流押込二外に炊事場玄關井戸付家賃二三五〇 若草町一の一二九矢島（二四一）

貸家 若草町一溫突二間疊敷二間日本流押込付外に炊事場玄關井戸付家賃二三五〇 若草町一の一二九矢嶋（二四二）

貸家 若草町一溫突三間半疊敷一間炊事場押込付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢島（二四三）

求貸家 西大門外西小門外方面なる四五十間の韓人家屋を格安にて貸受けたし 氏名在社（二四七）

貸家 南大門附近目拔の場所總二階間數十六疊敷六十五造作敷金共百五十圓 旭町一の六十 旭町觀貰所

廣告

醫術開業廣告

五月一日より六丁目共愛社醫院跡にて

眼科 内科 外科 花柳病科

瀧澤醫院

特に眼科は河本博士に多年親灸せり

東京醫科大學撰科卒業
同國家醫學講習科卒業
瀧澤喜太郎

▲清潔の下宿▼

客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候

壽町二丁目一番戸横小路（元花屋跡）

▲懇切の下宿▼ **かめ屋**

京仁共同輸入組合より四月二十日附を以て弊店を除名云々の廣告有之候へ共弊店は從來京仁共同輸入組合に加入致居候處右組合はトタン浪平板を高價に賣却するを目的とし爲に各御得意樣より度々御注意も有之現今の時勢及弊店の主旨に反するを以て去る三月廿七日附自ら進で退組仕候次第に付き此段爲念各位に謹告仕候

和洋金物商 京城本町二丁目 **佐野彦藏**

明治廿年七月創立 ● 京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九

東京火災運送海上保險株式會社

資本金一千萬圓 ● 事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

大流行と大好評のクラブ洗粉

クラブ洗粉の常用は現代紳士の特權なり

洗面料としてクラブ洗粉が如何に舶來品に優越せる特色を有するの

夏帽子其他夏物到着

京城本町三丁目 **亀屋** 電話二十七番 四七五番

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セズ）

京城旭町一丁目六十七番戸

辯護士 岡田榮

（電話三九八番）

新築落成

移轉開業御披露

當店儀昨年以來櫻井町に於て營業罷在候處今般同櫻井町に**新築**致居候家屋**全部落成**致候と同時に母國より**藝妓仲居等別ピン數名**新輸入致し五月一日より開業致候間賑々敷御來車被下度奉希候 謹言

開業の祝として五月一日より三日間二割引

海山樓 櫻井町九丁目 電話一七八番

待合 醉月 京城旭町二丁目 名古屋城横

開業御披露

巴に壽し並に折詰御好次第

京城壽町一丁目

巴すし

（電話一〇一七番）

東京流 **待合** 貸席 電話一〇二五番 京城南山町二丁目 [illegible]

上等生石灰販賣 九州セメント

京城南山町二丁目 電話三四四番 **山村商店**

龍山元町二丁目 電話三四八番 **中村運送店**

南山町二丁目 植村病院跡 **松岡醫院** 電話八七一番 入院隨意

東山の手柳町 **龍山 萬長旅館** 電話四〇〇番

諸官衙御用品調達 各學校御用品調達

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類

委託販賣

東京ランバーグ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番

出張所 東京京橋區南鍋町一丁目十五番地 電話新橋三九六二

特約販賣自製

漬物 味噌 醬油 製造元

大上商店 京城本町五丁目 （電話一一五一番）

和洋酒、精酎、穀物麵類、銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、鹽辛各種特約販賣 尚御望に依り商品切手調進仕候

讀み玉へ最廉價なる **大阪日報** 一ヶ月廿錢 京城府領事館通 **大成社**

日本郵船株式會社 大阪商船 **出帆廣告** 貨物及船客取扱店 電話十番

仁川海岸通 **郡回漕店** 電話三九番

● 釜山長崎門司神戸行 山東丸 五月 九日午後三時出
● 大連、太沽、牛莊行 高砂丸 五月二十七日正午時出
● 大連、大沽、牛莊行 山東丸 五月二十五日前五時出
● 大連、大沽、牛莊行 酒田丸 五月 十三日正午出
● 釜山出帆、元山、清津、浦潮行 立神丸 五月二十六日

同 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月 [illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行 [illegible]

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久太郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六三番